

「禪 修行」—富山治夫写真展—

ZEN Practice

ケース内展示資料解説

平成15年3月17日(月)～4月25日(金)

展示室 A

《修行の心得》

がくどうようじんしゅう
学道用心集

文暦元(1234)年頃/道元撰

延文2(1357)年/曇希開版/1巻1冊 正徳5(1715)年/宝慶寺30世重刊

道元が門下の参学者に対して、学道の心得十ヶ条を示した書。

同書は、延文2(1357)年に宝慶寺(福井県大野市)で、宝慶寺3世兼永平寺6世の曇希により開版され、日本曹洞宗における典籍印刷の最初として重要視される。

駒澤大学図書館

『学道用心集』十ヶ条

- | | |
|-----------------------|----------------------------|
| 第一 菩提心を発すべき事 | 第六 参禅知るべき事 |
| 第二 正法を見聞して必ず修得すべき事 | 第七 仏法を修行し出離を欣求する人、須く参禅すべき事 |
| 第三 仏道は必ず行に依って証入すべき事 | 第八 禅僧行李の事 |
| 第四 有所得心を用って仏法を修すべからず事 | 第九 道に向いて修行すべき事 |
| 第五 参禅学道は正師を求むべき事 | 第十 直下承当の事 |

しゅつけりやくさほうもん しゅつけじゅかいさほう
出家略作法文 (『出家授戒作法』)

嘉禎3(1237)年/道元撰

永禄元(1558)写/1巻1軸

道元が出家求道を志す在家者に対して、出家の意義及びその功德を示し、剃髮・着衣・授戒の作法等を説いた書。

駒澤大学図書館

《禅院の日常規範～清規～》

清規…禅宗寺院における修行僧が守るべき日常の生活規範や諸行事の儀礼等

赴粥飯法 (『永平元禅師清規』より)

嘉禎3-宝治3(1237-49)/道元撰
寛文7(1667)年/京都林伝右衛門刊/2巻2冊

道元が禅院における食事作法を説いたもの。「赴粥飯法」を収録する『永平元禅師清規』『日域曹洞初祖道元禅師清規』は、道元が記した日本曹洞宗最初の清規で、禅院における生活規範や各種役職の使命などを説いた書。「赴粥飯法」を含めた六篇から成る。

駒澤大学図書館

『永平元禅師清規』六篇

- | | |
|---------|----------------------------|
| 第一 典座教訓 | 典座(禅院の食事係)の重要性と心得を説く。 |
| 第二 弁道話 | 坐禅堂における進退作法を説く。 |
| 第三 赴粥飯法 | 禅院における食事作法を説く。 |
| 第四 衆寮箴規 | 衆寮(修行僧の看経・喫茶場所)の生活の仕方を説く。 |
| 第五 対大己法 | 先輩僧に対する初学者の礼法を説く。 |
| 第六 知事清規 | 禅院における重要な役職である六知事の職掌を説く。 ▫ |

永平小清規 (『吉祥山永平寺小清規』)

文化2(1805)年/玄透即中撰/3巻1冊

永平寺50世の玄透即中の撰述で、道元の『永平元禅師清規』が時勢の変化によって古風を失い、道元の真意に背く者が多くなって来たことを嘆き、道元の古規に復すべく制定した清規。

駒澤大学図書館

瑩山和尚清規

元亨4(1324)年制定/瑩山紹瑾撰/2巻2冊
延宝6(1678)年/卍山道白撰/京都出雲文二郎刊

太祖瑩山が、高祖道元の『永平元禅師清規』をもとに、能登永光寺(石川県羽咋市)において生活規範や諸行事を規定した清規。道元の清規が精神面や哲学的側面に焦点を当てているのに対し、瑩山の清規は日常生活を日分・月分・年分の三項目に分けて、その儀礼作法について説く。

駒澤大学図書館

《坐 禅 の 心 得》

だいかくぜんじざぜんろん 大覚禅師坐禅論

14世紀前期刊／蘭溪道隆撰
寛永6(1629)年／京都村上平樂寺刊／1巻1冊

臨済宗の僧・蘭溪道隆(大覚禅師、1213～78)が問答体で坐禅について論じた書。鎌倉幕府執権北条時頼の招きで南宋より来日した蘭溪道隆は、武家の都鎌倉に純粋な宋朝禅をもたらし、その後の京・鎌倉の禅宗展開の端緒を開いた。彼が建立した建長寺は、今年で創建750年目に当たる。

駒澤大学図書館

ざぜんざんまいほうもんきょう 坐禅三昧法門経

4-5世紀頃／鳩摩羅什訳 北宋・崇寧元(1102)年開版
宋版／東禅寺開版／2巻2帖

坐禅観法に関する諸説を網羅した、禅経中第一に推すべき書。生死輪廻を脱するに禅法実修をもってすべきこと、坐禅入門者の力量に応じ適切な観法を授けること、修禅者の実際の心得などが示されている。

駒澤大学図書館

ざぜんようじんき さんこんざぜんせつ 坐禅用心記・三根坐禅説

14世紀／瑩山紹瑾撰

延宝8(1680)年／卍山道白撰／京都風月荘左衛門刊

ともに太祖瑩山紹瑾の著で、二編合綴されている。

『坐禅用心記』は、道元の「普勧坐禅儀」を基本に、坐禅の実際をわかりやすく述べたもの。坐禅の仕方を調身・調息・調心の心得、食事・衣服・環境状況等の細部にわたり説明する。

『三根坐禅説』は、坐禅を学ぶ者の素質を三根(上根・中根・下根)に分け、各々の力量に応じて相違があることを示す。

駒澤大学図書館

《 普 く 坐 禅 を 勧 め る 》

ふかんざぜんぎ 普勧坐禅儀〔複製〕

嘉禄3(1227)年／道元撰／1軸

宋より帰国した道元が、建仁寺で撰述した立教開宗の宣揚書。正しい坐禅を人々にひろく勧め、坐禅の意義や実践法を説いた「普く勧める坐禅の儀」。3m余りの卷子には756文字が、格調高い四六駢儷体で記されている。大本山永平寺には、天福3(1233)年の道元自筆浄書本(国宝)が所蔵されている。

駒澤大学禅文化歴史博物館／原本:大本山永平寺(福井)

《曹洞禅僧の墨蹟》

てんがんそぎょう
天巖祖暁 (1667～1731) 書

無 露 刃 劔

じんけん あら
刃劔を露わにすること無し

駒澤大学図書館

ふようろうらん
父幼老卯 (1724～1805) 書

莫 妄 想

もうぞう
妄想すること莫かれ

駒澤大学禅文化歴史博物館

ほうじゆんそしゆん
芳充祖俊 (?～1738) 書

忍 只箇一字勝千金

にん ただこ いちじ せんきん まさ
忍 只箇の一字 千金に勝る

駒澤大学図書館

とうこうしんえつ
東皐心越 (1640～1696、中国よりの渡来僧) 書

雲 山高岩碍白雲飛

くも やまたか いわ ほうくんと さまた
雲 山高く 岩 白雲飛ぶを碍げる

駒澤大学図書館

展 示 室 B-1

そうとうしゅうそさんごくでんとうれきだいでしんえい
曹洞宗祖三国伝東歴代御真影

明治35(1902)年／福川龍海編

しゃかむにぶつ しゃくそん
釈迦牟尼仏(釈尊)からはじまり、インド・中国・日本にいたる一仏五十六人の曹洞宗の系譜を一覧することができる掛け

軸。最下段には、道元(高祖)―懷奘―徹通―瑩山(太祖)―明峯―峨山にいたるまでの日本の祖師たちを載せる。

駒澤大学図書館

《中国の清規》

ちやくしゅうひやくじょうしんぎ
勅修百丈清規

元・至元2(1336)年／東陽徳輝撰

寛永6(1629)年／京都二条玉屋町村上平楽寺刊／8巻4冊

中国禅院における最初の清規は、唐の百丈懐海(749～814)が撰じた『百丈清規』であるが、宋代(10世紀頃)には失われてしまった。『勅修百丈清規』は、東陽徳輝が元の皇帝の命により、『禅苑清規』(下資料)など古来より行われてきた清規を参照し、整備したもの。その後の清規の基本となった最も完備されたもので、日本でも重用された。

駒澤大学図書館

ぜんねんしんぎ
禅苑清規 (『重雕補注禅苑清規』)

北宋・崇寧2(1103)年／長蘆宗臣撰

宝永6(1709)年／京都臨泉堂文臺屋次郎兵衛刊／10巻3冊

ひやくじょうえがい
百丈懐海の『百丈清規』が、宋代には失われてしまったことを遺憾とした長蘆宗頌が、広く当時の古刹禅院の行法格式の跡を探り、時代の推移と現状に即して制定した清規。

駒澤大学図書館

《高祖道元と永平寺》

道元（高祖）：正治元年～建長5年(1200～1253)

大本山永平寺：福井県吉田郡永平寺町 寛元2(1244)年開創

越前州吉田郡志比庄永平禅寺全図

嘉永5(1852)年／永平寺刊

永平寺は曹洞宗二大本山の一つ。寛元2(1244)年、道元 45 歳の時、京都六波羅探題の武士で檀越(檀家)の波多野義重の招きにより、越前志比庄に大仏寺を開創。2年後に永平寺と改めた。以来、深山幽谷にあつて760年、古規を守り続けている。本図は道元六百回の大遠忌当たり刊行されたもので、江戸時代末期の永平寺の様子を伝えている。

駒澤大学図書館

道元禅師画像〔複製〕

いわゆる「月見の像」として最も親しまれている道元像。原本は福井県大野市宝慶寺に所蔵される。

駒澤大学図書館／原本:宝慶寺

正法眼蔵(卷二十七「坐禅箴」)

寛喜3-建長3(1231-53)年／道元撰

元禄6(1693)年／寛巖春登写／96巻31冊

『正法眼蔵』は道元の著述の中で最も代表的な書。展示した卷二十七「坐禅箴」では、仏祖正伝の坐禅は悟りを得ることを目的する待悟禅ではなく、坐禅そのものが悟りであり、坐禅の境地は測ることのできない非思量の世界であると説く。なお、展示した『正法眼蔵』は、図書館に所蔵される数ある写本・版本のうちでも最古のもの。

駒澤大学図書館

《太祖瑩山と總持寺》

瑩山紹瑾(太祖)：文永元年(一説に文永5年)～正中2年(1264/1268～1325)

總持寺祖院：石川県鳳至郡門前町 元亨元(1321)年開創

大本山總持寺：神奈川県横浜市鶴見区 明治44(1911)年遷祖式

能州諸嶽山總持禅寺図

江戸時代末期／諸嶽封内豊田氏刊

永平寺と並ぶ曹洞宗二大本山の一つ。元亨元(1321)年、瑩山が能登鳳至郡櫛比庄の真言宗寺院を改めて總持寺とし、以来、曹洞宗教団の全国展開の拠点となった。明治31(1898)年4月13日の火災を機に、現在地の横浜市鶴見区に移転。旧地には、總持寺祖院が建ち、厳粛な修行道場の偉容が保たれている。本図は能登時代の總持寺を描いたもの。

駒澤大学図書館

だいほんざんそうじしぜんけい
大本山總持寺全景

昭和27(1952)年／總持寺刊

鶴見にある現在の總持寺の全景。

駒澤大学禅文化歴史博物館

けいそんそう けいざんしょうきんそう
瑩祖尊像 (瑩山紹瑾像)

森田悟由(1895-1915)画賛／明治時代／1軸

駒澤大学図書館

でんこうろく けいざんおしょうでんこうろく
伝光録 (『瑩山和尚伝光録』)

瑩山紹瑾撰

延享4(1747)年／端硯写／4冊

瑩山の代表的著作で、道元の『正法眼蔵』と並び称される曹洞宗の根本宗典。釈迦牟尼仏(釈尊)より、道元・自分の師

懷奘えいじょうに至るまでの禅宗の祖師53人の伝記。

駒澤大学図書館

展示室 B-3

しょうぼうげんぞう ほんぎ
『正法眼蔵』とその版木

江戸時代以降、印刷技術の発達に伴い、『正法眼蔵』も刊行されるようになった。展示した版木は、駒澤大学内に保管されていた版木で、学内資料調査として、現在、禅文化歴史博物館で調査を行っている。

これらの版木は、駒澤大学の前身に当たる「曹洞宗大学林専門学本校」などで印刷され、教科書として使用された。

駒澤大学禅文化歴史博物館

展示室 B-4

はくいんえかく
白隠慧鶴(1667～1731)書

尊 行持有らん一日は尊ぶべきの一日なり

行持無からん百年は恨むべきの百年なり

白隠慧鶴は「臨済宗中興の祖」と呼ばれ、多くの書画を残していることでも高名な禅僧。「尊」に続いて記されている句は、高祖道元の『正法眼蔵』の「行持ぎょうじ」の巻に基づく句で、曹洞宗の教義が臨済僧にも浸透していたことをうかがわせる。

駒澤大学禅文化歴史博物館

展示室 B-5

みやもとむさし ほしなまさゆき ほていす
宮本武蔵筆・保科正之賛「布袋図」〔複製〕

剣豪・宮本武蔵(1584-1645)は、「剣禅一如」で知られる沢庵和尚たくあんとの交流の逸話もあるように、禅に親しみ、兵法と禅の境地を『五輪書ごりんのしょ』に記した。禅の書画にも秀で、多くの作品を残している。「布袋図」は七福神の一つで、代表的な禅画の画題である。賛を記した保科正之は、徳川家光の弟で会津藩主。本図は、武蔵が晩年に身を寄せた肥後細川家から、会津保科家に贈られたという伝来を持つ。

駒澤大学図書館